KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

despues de que は dequeismo か : dequeismo研究への提言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻井, 宗明 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00006282

関西外国語大学 研究論集 第81号（2005年２月）
Journal of Inquiry and Research, No.81 (Feb. 2005)

“después de que” は dequeísmo か

――dequeísmo 研究への提言――

辻 井 宗 明

0．はじめに

特にラテンアメリカにおいて、所謂 dequeísmo という現象が観察され、また研究されて久しい。後ほど見るようにその論理的原因に関しても様々な見解があるようである。

さて、筆者は数年前 “después de que” に関する調査を行ったが、その折、“después de que” は dequeísmo なのか、そして、現在の dequeísmo 研究では “después de que” に代表されるような複合前置詞はどのように扱われているのだろうか、ということを疑問に思った。

本稿は、dequeísmo 現象を解明しようなどという大それたものではなく、“después de que” を調査した結果を元に、今後の dequeísmo 研究の方向性に関して何らかの提言ができないものかとその可能性をまとめたものである。[1)]

1．dequeísmo 概観

1.1 dequeísmo の用法

現象自体は周知であろうと思われるが、定義として Gómez Torrego（1999，p.2107）から抜粋しておく。彼の論文には dequeísmo に関する様々な説が要領よくまとめられている。

> Normalmente se entiende por ‘dequeísmo’ el empleo de la preposición *de* delante de la conjunción subordinante *que* cuando aquélla es superflua en el contexto en que aparece, es decir, cuando ningún elemento de la oración en que se encuentra la exige ...
>
> Resulta de que ya era tarde.
>
> Sospecho de que me van a venir a buscar.
>
> Es fácil de que llueva.

いくつかの資料を元にどのような意見があるのか概観しておこう。

1943年にすでにこの現象に言及し、特に伝達や精神活動の動詞に de を置く現象として指摘したのが Butt & Benjamin（2000, §33.4.3）である。

?*Dice de que no viene*（for *dice que no viene*）‘（S）he says（s）he's not coming'

?*Creo de que no es verdad.*（for *creo que es verdad*）'I think it isn't true'

R.A.E.（1979, p.522）も同じような指摘をしているが、"No me hagas de reír." のように直接目的格の不定詞の前に de を置く現象を「まったく俗的な」（netamente vulgar）用法として紹介しているのが特徴である。

Kany（1945, p.411）では、まず de の省略があり（p.408-410）、それが decir, creer, aconsejar などのとる名詞節における de の付加につながるとの見解を示している。

また、中岡（1995）でも、名詞節を導く que の直前に現われる余剰の de としての dequeísmo（Pensando de que iban a atacarla, avisó a la policía.）と、逆に特定の動詞の支配を受けて現われる前置詞 de が、名詞節を導く que の前で脱落する queísmo（Me acuerdo que se puso muy enfadado.）が並列的に紹介されている（p.586）。

1.2 構造

dequeísmo がどういう統語条件で使用されているかについて Gómez Torrego（1999）をまとめると次のようになるだろう（pp.2108-2113）。

Es seguro de que se va a suspender el acto.（en la función de sujeto）

Pienso de que es difícil salir de esa situación.（en la función de complemento directo）

Mi impresión es de que se ha introducido este tóxico.（en la función de atributo）

Tengo fe de que me vas a ayudar.（confusión de preposiciones regidas）

Puedes usarla de manera de que el lumno se interese.（en algunas locuciones conjuntivas）

Lo que me preocupa es de que no me hayas llamado.（en estructuras ecuacionales）

1.3 使用地域（国）

dequeísmo が頻繁に使われる国として特によく名前があげられるのは Perúである。Butt & Benjamin（2000）によれば、その国では「ラジオやテレビでも普通に聞ける」としている（"... where it is constantly heard on radio and TV." §33.4.3）。また、その他の地域については、Rabanales（1974）が、Santiago（Chile）の口語における queísmo と dequeísmo を調査し、またその調査を受けて、Caracas（Venezuela）の現状と比較調査したのが Bentivoglio（1976）や Bentivoglio y D'Introno（1977）である。Bentivoglio の意見によれば、Caracas における dequeísmo は Santiago ほど強いものではないということであるが、個々の研究は、む

しろ後に示す社会言語学的な見地からの報告であると言ってよい。また、同じように従来のいくつかの使用都市（国）データと Lima（Perú）を比較したものが Mc Lauchlan（1982）であり、上記の Rabanales の Santiago のデータと比べ、Lima の方が depueísmo の頻度が低いとしている。また、México における余剰の de を扱ったのが Arjona（1978, 1979）である。地域の比較で面白いのは、Carbonero（1992）である。彼は従来の地域頻度的なデータを比較し、queísmo と dequeísmo が現われる頻度を調べた。その結果、queísmo が一度出現する時間は、Caracas（35分）、México（87分）、Sevilla（144分）であり、dequeísmo では、Madrid（55分）、Caracas（87分）、Sevilla（102分）、México（262分）であったと述べている。しかしながら、dequeísmo に関しては、De Mello（1995）が述べているように、España より Hispanoamérica の方が圧倒的に多いというのが研究者のおおかたの見方であり、また España の中では、Madrid より Sevilla の方が多いようである。Náñez（1984）にいたってはその起源に言及し、「南に行くほど dequeísmo の頻度が高くなり、出所は Argentina, Uruguay, Paraguay あたりを想定できるかもしれない」（p.245）と述べている。

1.4 社会言語学的側面（年齢・性差）

Mc Lauchlan（1982）のデータによれば、Lima においては第3世代（56歳以上）が、その他の第1（25－35歳）、第2（36－55歳）世代に比べると、dequeísmo の頻度が一番低い、としている。この傾向は、複数の dequeísmo 使用国を対象に行った DeMello（1995）の調査でも観察され、年齢が上がるほど dequeísmo の使用頻度が下がる傾向にあり、もっとも若い世代（第1世代）がもっとも頻度が高い。しかしながら、Valencia の動向を調査した Gómez Molina（1996）は、第1世代（18－30歳）がもっとも頻度が低いとしているし、Bentivoglio（1980－1981）によれば Caracas では、第2世代（36－55歳）がもっとも頻繁であったようである。[2] また、性差に関して Gómez Torrego（1999）は、男性の方が頻繁に dequeísmo を使用するということでおおかたの意見は一致しているとしている（"los estudiosos del dequeísmo, salvo alguna pequeña excepción, coinciden en que los hombres son más dequeístas que las mujeres."）[3]

1.5 原因

1.5.1 類推（analogía）

Hildebrandt（1969）は、スペイン語には hablar de, dudar de, tratar de, quejarse de, alegrarse de 等の de を従えるのが規範である動詞がある。これらが節を従えるとき、"habló de que vendría" や "dudo de que pague" が可能になる。これらは正当な語法であるのだが、de を必要としない pensar, saber, creer という動詞にまでこの用法がひろまってしまう

("pensó de que vendría")。同じように、"es hora de que me vaya" が "es verdad de que trabaja mucho" という統語的な類推を引き起こしてしまう、と述べている (pp.143-144)。

Gómez Torrego (1999) も同じように左の動詞句の統語から類推して右の動詞句が生成されるのだとして、次のような例をあげている。

habló de que → dijo de que, afirmó de que, comentó de que

me acuerdo de que → recuerdo de que

existe la posibilidad de que → es posible de que

hay necesidad de que → es necesario de que

me avergüenzo de que → me avergüenza de que

me alegré de que → me alegró de que

また、同じく類推説であるが、Rabanales (1974) は、意味的に同じであるふたつの文 "temía que no viniera." と "tenía el temor de que no viniera." が交差し、"temía de que no viniera." を類推させて産みだすのだと説明している。このようなほとんど同じ意味の動詞と名詞の対がいつもあるとは言えない、むしろほとんどの場合は sinónimo となる名詞は存在しない、という Bentivoglio (1975) の反論に対し、Arjona (1978) は、上記の例で言えば temer に対する temor というような動詞と sinónimo になるような名詞がなくても、tener la impresión de que → creer de que, darse cuenta de que → saber de que のように、それぞれの意味に類する似かよった対があればいいのだと主張している。

1.5.2 過剰修正 (ultracorrección)

Arjona (1978) は、dequeísmo の原因として上記の類推を認めた上で、*Le asusta la posibilidad de que no llegue.* から de を省略してはいけないという意識から *Es posible de que no llegue.* にまで de をつけてしまうのだとしている (p.75)。また、Gómez Torrego (1999) では España における dequeísmo の原因に触れられている。España では Cataluña や Valencia に多い。というのも catalán においては接続詞の que には de が付かないので、彼らが castellano を話すときには de を省いてしまうことが多い。結果、それを避けようとして de を付けてしまうというのである (p.2127)。Bentivoglio は、中流階級の人々が上流の真似をしようとすることから過剰修正を起こすのだと社会言語学的見地から説明しているようである。[4)]

上記のように、論理的な原因としてはいくつかあげられているが、de が使われる理由として共通しているのは、前置詞 de の意味の希薄さ (Náñez 1984, Gómez Torrego 1999) や多義性 (Rabanales 1974) によるものであるとしている点である。

1.5.3 意味や文体の差

少数ではあるものの、de の有無による意味や文体の差を示唆するものがある。Bentivoglio y D'Introno (1977) は、dequeísmo が頻繁に観察される中・上流階級においては、de を付けることにより主節や従属節の内容に関して話者の主張が弱められる ("...la presencia de *de* debilita la aserción tanto de la principal como de la subordinada, y esto sería cierto sobre todo para los hablantes de los niveles medio y alto, donde el fenómeno se manifiesta con mayor frecuencia." p.80) としている。[5] Náñez (1984) は、Me extraña el traje que lleva. よりも Yo me extraño de que lleve ese traje. の方が明らかに表現が際立っている (mayor expresividad) として、それが pienso que と pienso de que の対にも広められたとしている。このような母語話者の直感による仮説は外国人の我々には批評するべくもないが、その直感を受けて同じく De Mello (1995) も、que の代わりに de que を使うことにより、主節と従属節の分離が知覚され、その結果として従属節の内容がより強調され際立たされるとしている (p.132)。Gómez Torrego (1999) の報告によると、E.García は de を付けると話者が従属節の内容に対して全面的に責任をもつわけではない、というような距離がより強く感じられると述べているようである。[6]

1.5.4 起源

dequeísmo の起源について、上記の論理的な原因以外で触れたものは少ない。異色なのは、Cortés (1992) の意見であり、「起源」というほどでもないが、これほど広まった原因のひとつに、dequeísmo をよく使う Uruguay, Argentina, Chile などのサッカー選手がここ20年ほどの間にマスコミで活躍していることをあげている。

また、Kany (1945) や中岡 (1992) は古スペイン語における de の使用 (deísmo) に、また、Gómez Torrego (1999) は現代のそれに言及しているが、これについては次に詳しく見ていくことにしよう。

2. dequeísmo 研究における "después de que" の扱い

後で詳しく観察するように、歴史的に見ると "después de que" は元々 "después que" であったことは周知の事実である。これを dequeísmo 研究者はどう見ているのだろうか。全体を観察してみると、あまり注意は払われていないようである。たとえば Butt & Benjamin (2000) では、"§33.4.2 De before que" として正当な用法 (me acuerdo de que など) を説明する際に "antes／después de que" を扱っており、その後、"§33.4.3" として "Dequeísmo" を扱っている。すなわち、彼らは "después de que" を dequeísmo として認識していないようである。また、queísmo に言及するとき、「半島スペイン語では非標準的な用法として避けられるであろ

う」（“may be rejected as substandard by Peninsular speakers” p.447, notes (i)）としているが、そこには “antes／después (de) que” は含まれていない。中級のスペイン語文法での記述ではあるが、高垣（1995, p.155）は元々正当に de をとる構文（estoy seguro de que）と共に “antes de que” をとりあげ、この de が脱落する queímo を紹介した後で、逆に「不必要な」de を付加する “decir de que” や “creer de que” のような dequeísmo を「誤っ」た用法としてあげている。

これらの文法家の認識は当然のことで、“antes／después de que” のように de を付加することは、すでに充分な市民権を得ているのであろう。Moliner（2002）にも、“Parece [...] razonable no negar legitimidad a las formas con <<de>> , si bien las formas con el adverbio escueto son, por lo menos en el caso de <<antes>> y, sobre todo, en el de <<después>>, [...] más frecuentes.”（p.1511）の記述がある。

上記のように、“después de que” を無標と考え、de を省略した形式（después que）を有標と捉えているようである。これは一般的な現象であり、このような認識は間違ってはいないと思われる。少なくとも共時的には、“después de que” を “creo de que” と並列的に並べて dequeísmo であるとは言いにくいであろう。唯一 Quilis（1986）が、“después de que” は dequeísmo であると述べているようである。[7]それでは、“después (de) que” は通時的にどのような変遷を辿ったのであろうか。

3．después（de que）の史的変遷

表１：<después de の補語>

	＋S.N.	＋Infinitivo	＋P.P.
1200－1299 (150例)	99.3% (149)	0% (0)	0.6% (1)
1300－1399 (184例)	96.2% (177)	2.2% (4)	1.6% (3)
1430－1480 (600例)	66.2% (397)	4.8% (29)	29.0% (174)
1540－1549 (932例)	45.5% (424)	30.5% (284)	23.7% (220)
1640－1660 (764例)	32.2% (246)	46.9% (358)	20.9% (160)
1730－1779 (509例)	44.8% (228)	40.9% (208)	14.1% (72)
1840－1849 (566例)	46.3% (262)	44.9% (254)	8.7% (49)
1949－1951 (736例)	54.6% (402)	39.7% (292)	5.7% (42)

※S.N. = Sintagma Nominal, P.P. = Participio Pasado
※括弧内は実例数

表２：<después {ø／de} que ＋ 活用動詞>

después ø que ＋活用動詞	después de que ＋活用動詞
100% (155)	0% (0)
100% (223)	0% (0)
99.5% (1268)	0.5% (6)
99.5% (4384)	0.5% (22)
99.5% (1133)	0.5% (6)
97.6% (331)	2.4% (8)
92.6% (589)	7.4% (47)
29.3% (1160)	70.7% (2803)

表1は各世紀における"después（de）"の補語の種類を調べたものである。[8]また、右の表2は、después が節を補語にとるときの que と de que の比率を、表1と同時期ごとに調査したものである。[9]

después は、次の（1）に見るように元々前置詞などを介さずに補語を伴って使われていた。ただ、この用法は1200年代ですでに稀になっていたようであり、ほとんどが de を伴っている。

(1) ...por esta donación que yo María Lorénciz fago al monesterio devedes mi afontrar depós mía morte .

（AÑO: 1256, AUTOR: Anónimo, TÍTULO: Donación de una heredad [Documentos del Archivo Histórico Nacional（a1200-a1492）], PAÍS: ESPAÑA）

その後、1300年代を経て、1400年代になると少しずつ"después de + Infinitivo"が使われはじめることがわかる。[10]

(2) Dígovos que así como el dormir es malo ante de comer, que es mucho peor el trabajar demasiado después de comer sin dormir o sin folgar.（AÑO:1471-1476, AUTOR: García de Salazar, Lope, TÍTULO: Istoria de las bienandanzas e fortunas, PAÍS: ESPAÑA）

表1と表2を見比べてみると、1300 年代から después de + Infinitivo の例が出現しはじめ、その後すぐ（1400 年代）から después de que が現われはじめる。このふたつの表を素直に記述すれば次のようになるだろう（綴りは現代のものに統一してある）。

（después su muerte）
↓

1200年代	después de su muerte	———	después que murió
1300年代	después de su muerte después de morir	———	después que murió
1400年代	después de su muerte después de morir	———	después que murió después de que murió

すなわちこれは、"después de que"における de が繋ぐものは、元々は después と S.N./不定詞であったということではないか。その後、不定詞が節になると当然のことながら不定詞は"que + 活用動詞"で表されたということではないだろうか。[11]

4．dequeísmo と deísmo（de + infinitivo）との関係

4.1 deísmo 起源説

このような考え方は数は少ないが筆者ひとりではない。Gómez Torrego（1999）は、dequeísmo は deísmo の一種であると指摘し、Náñez（1984）の例文をあげている。

Alicia dijo de tunbarse en un alcorcillo.

Lo oí de entrar. Me ha hecho de pensar.（p.241）

そして、このような用法（deísmo）が dequeísmo のもうひとつの原因になっているのかもしれないと述べている。

> Esta podría ser otra causa del dequeísmo, al menos en estas zonas（Andalucía y Extremadura y lugares limítrofes） y en este estrato sociocultural, pues es fácil extender la preposición *de* superflua delante de infinitivos a oraciones subordinadas completivas con *que*.（p.2128）

また、Seco（1989）は、"de" の項において "Uso innecesario" として dequeísmo をあげ、次のように記述している。

> En la lengua vulgar, y sobre todo en algunas regiones, es frecuente el uso de la preposición *de* precediendo a proposiciones dependientes de verbos que no rigen ninguna preposición: *Lo he visto DE caer*; *No le importa DE reconocerlo*; *No le importa DE que le vean* [...] Esto ocurre muy especialmente con verbos que significan en general 'decir' o 'pensar' ...（p.134）

すなわち、"decir de que" や "pensar de que" という「典型的な」dequeísmo の例を出す前に、不定詞構造をとる文をあげているのが印象的である。

そして、もっとも直感的に鋭く指摘していると思えるのは、中岡（1992）である。

> 「中世イスパニア語には前置詞の統語法においてそれ特有の現象がみられるが、主語となったり直接補語となる名詞句が不定詞で現われる場合、その不定詞の直前に前置詞の DE を置くという事実があった。この現象は近代イスパニア語には継承されていないが、近年広くイスパニア語圏で記録されている DEQUISMO と密接な関係をもっているのではないかとも思える・・・」（p.15）

このような古スペイン語から原因を探ろうとするものには Kany（1945）があり、彼も、古いスペイン語において、元々 de を従えていた動詞（aconsejar, creer, decir, determinar, olvidar, pensar）が前置詞を捨てたり、あるいは別の前置詞と組んだときに混同が起こった、としている。（pp.409-410）

4.2 dequeísmo としての "después de que"

"después de que" は dequeísmo である。問題視される前に文法化してしまっただけのことであり、本質的には dequeísmo と言ってよい。"pienso de que" などと同列に扱うことに気が進まなければ、「容認できる dequeísmo」としてもよい。[12]そして、その史的変遷を観察すれば、después に節（que）が付加されるときにその仲介として de があったわけではなくて、その前に "después de + Infinitivo" があり、その後、Infinitivo が "que + 活用動詞" になったのではないか。それが、後に不定詞構造を許すような構文にひろがったのが dequeísmo の起源だということはできないだろうか。

図1：<después de（que）を起源とする dequeísmo>

（después la salida）

↓

después de la salida/salir ┐ ⇒ ┌ Tengo la impresión de ser ... ----------

↓

después de que sale(salga) ┘ └ Tengo la impresión de que es ... → Dice de que sale

先ほどあげた中岡（1992）が dequeísmo の起源を deísmo にもとめたことは非常に説得力がある。ただ、de の機能に触れ、次のように結論している。すなわち、中世においては「de + 不定詞」も「que + 文」も、それぞれ異なった文法的資格をもって、名詞化[13]を表す標識として機能していたが、近代語になると、de はその機能を衰退させ、補語標識としての que を補強する機能をもつようになったというのである（pp.28-29）。筆者は本稿においては、まだ de の機能についてまとまった意見はもっていない。しかしながら、彼のこの結論が、表1と表2で見たように、1300年で初めて出現した "después de + 不定詞" が、1400年代ではすでに "después de que + 文" として現われる事実と符合するだろうか。

ちなみに、"después de que" が "después que" に数の上で取って代わるのは 1900 年代であり、もっと詳しく見ると 1970 年代だと考えられる。面白いことにその推移の仕方は "antes（de）que" もほぼ同じで 1970 年代あたりから頻度が逆転している。

表 3 ：<después/antes que と después/antes de que の使用頻度の変遷>

	1955-59	1960-64	1965-69	1970-74	1975-79	1980-84	1985-89	1990-94	1995-99
después que	(46) 87%	(37) 73%	(50) 83%	(32) 67%	(52) 31%	(56) 19%	(98) 17%	(129) 18%	(115) 8%
después de que	(7) 13%	(14) 27%	(10) 17%	(16) 33%	(116) 69%	(242) 81%	(491) 83%	(592) 82%	(1252) 92%
antes que	(105) 56%	(159) 51%	(204) 60%	(121) 48%	(200) 41%	(271) 29%	(533) 38%	(626) 38%	(595) 33%
antes de que	(82) 44%	(154) 49%	(135) 40%	(135) 52%	(290) 59%	(670) 71%	(884) 62%	(1031) 62%	(1233) 67%

しかしながら、中岡の「de の不定詞に対する名詞化標識」説は非常に魅力的である。筆者としても、不定詞の意味機能の変化が鍵であるような気がしているが、詳しいことに関しては、今後の課題としたい。

また、未だ調査段階ではあるが、“después que” や “antes que” と共に古くから盛んに使われていた接続詞句に “luego que” がある。ところが、前者 2 形式は、“después de que” や “antes de que” のように de を介するようになるのに、“luego que” は “luego de que” として定着していない。[14]そこで調べてみたが、表 4 と表 5 で見るように、“luego que” は古くから存在するにもかかわらず、1900 年代までは “luego de + 不定詞” の例がほとんど発達していないことがわかった。その理由は今のところ不明であるが、いずれにしてもこの事実は、“después que” が “después de que” になるためには、その前に “después de + 不定詞” の存在が必要であることの証左にならないだろうか。

表 4 ：<luego de + Infinitivo>

	+ Infinitivo
1200-1299	0
1300-1399	0
1400-1499	1
1500-1599	4
1600-1699	1
1700-1799	0
1800-1899	10
1900-1999	361

表 5 ：<luego {ø／de} que + 活用動詞>

luego ø que ＋活用動詞	luego de que ＋活用動詞
240	0
406	1
645	0
1718	0
1209	1
1060	0
1145	1
827	21

5．まとめ

dequeísmo における研究対象は、"Dice de que" の連鎖における de ではなく、antes（de）や después（de）などを起源とする deísmo（de ＋ infinitivo）、すなわち複合前置詞における de である。複合前置詞の成り立ちや不定詞について共時・通時的な研究をすることにより、de がいかなる機能で二者をつないでいるのかを明らかにすることができるのではないだろうか。

また、queísmo に関して言えば、dequeísmo と起源が同じであると感じている文法家が多いようであるが、[15]両者は別物であると位置づける方がいいのではないだろうか。すなわち、前置詞の省略としての queísmo は、Rabanales（1974）が述べているように特に de に限ったことではない。[16]

> Si bien el queísmo se refiere por definición a la omisión de *de* ante el *que*, preferentemente gramemático, de hecho la omisión se extiende también a otras preposiciones, y, sobre todo, a *en*...（p.438）

すなわち、de を省略する queísmo はあらゆる前置詞省略のうちのひとつにすぎないが、dequeísmo は、単に que に de が付加されたものではなく、"de ＋ Infinitivo" で構成される統語条件を起源としていると考えたいのである。

今回、その複合前置詞における de は何と何を繋いでいるのか、あるいは、どうして不定詞と組むことができるようになったのかという核心には迫れなかったが、dequeísmo を研究する上で、「名詞節における主動詞と従属節（que）を繋ぐ de」という従来の視点とは異なった視点を提示することができたと思う。

注

1）本稿は、2004年6月5日大阪産業大学において開催された関西スペイン語学研究会（CLHK）第274回例会において口頭発表し、加筆、修正を行ったものです。出席者のみなさんにはたくさんの貴重なご意見を賜り御礼申し上げます。また、神戸市外国語大学の福嶌教隆先生には、後日 dequeísmo に関する貴重な資料をたくさん送っていただき、重ねて深く感謝いたします。

2）Gómez Torrego（1999）, p.2133 参照

3）たとえば、Caracas を調査した Bentivoglio y D'Introno（1977）によれば、どの社会層においても男性：女性の dequeísmo 使用頻度は、6：4から7：3である（pp.64-67）

4）Gómez Torrego（1999）, pp.2126-2127 参照

5）Bentivoglio は後にこの仮説を捨てるようである（Gómez Torrego 1999）

6）Gómez Torrego (1999), pp.2129-2130 参照

7）Gómez Torrego (同上), p.2112 参照

8）本稿での統計調査（表1～表5）はすべて Real Academia Española の CORDE と CREA において対象地域のみを "España" に絞り、Medio や Tema は "Todos" として検索したものである。

9）表1における各世紀の調査期間は、観察可能な実例数に抑えるために制限してあるところがある。その場合にはなるべく世紀の真ん中あたり（50年前後）を中心に設定した。また、表2では、各世紀ともすべて100年を調査期間に設定してある。また、1200年代～1400年代までは después が形態的に安定せず、después、depués、depós がある。その異形態での分布は次に示す通りである。

表1：

1200-1299	después de	: 80	1300-1399	después de	: 147	1430-1480	después de	: 597
(150 例)	depués de	: 54	(184 例)	depués de	: 37	(600 例)	depués de	: 3
	depós de	: 16		depós de	: 0		depós de	: 0

表2：

1200-1299	después que＋活用	: 132	1300-1399	después que＋活用	: 186	1400-1499	después que＋活用	: 1266
(155 例)	depués que＋活用	: 21	(223 例)	depués que＋活用	: 37	(1266 例)	depués que＋活用	: 2
	depós que＋活用	: 2		depós que＋活用	: 0		depós que＋活用	: 0

10）"después de + P.P." は「独立分詞構文」であろう。

・fizo dar señal a cabalgar, después de fecho un brebe razonamiento. (AÑO: 1471-1476, AUTOR:García de Salazar, Lope, TÍTULO:Istoria de las bienandanzas e fortunas, PAÍS: ESPAÑA)

・Este Ulixes fue en la conquista de Troya, donde estuvo con los otros griegos diez años en conquistarla y otros diez años en bolver a su tierra, después de destruyda Troya.

(AÑO:1425-1450, AUTOR: Rodríguez del Padrón, Juan, TÍTULO:Bursario, PAÍS:ESPAÑA)

Gómez Torrego (2000) では、"Cláusulas absolutas de participio" と呼ばれているものである。このような用法は現代でも充分文法容認性の高いもののようであるが、重複表現的であるからか、表1の結果からもわかるように、特に書き言葉ではそれほど頻繁ではないようである。本稿においてはこの用法にはこれ以上立ち入らない。

Terminada la clase, los alumnos salieron al recreo.

Una vez terminado el partido, cogeremos el autobús.

Después de terminado el discurso, el orador se sentó. (Gómez Torrego 2000, p.351)

11）1400年代における dsespués de que 出現の後、1700～1800年代になるまでその頻度は僅少である。この現象に関しては、不定詞そのものの意味機能の変遷に求められるかもしれないが、今のところ不明であり、今後の課題にしたい。

12）そのようなことは、人を扱う leísmo (Busco a Juan. → Le busco.) と、物を対象にする leísmo (Bsuco el libro. → Le busco.) など、同じ語法での容認度の違いは存在する。

13）「名詞節化」とする方が正しいかもしれない。中岡 (1992) では「"名詞節" に指定するための標識」と述べているが、「名詞節」とするとどうしても "que + 活用動詞" を思い浮かべ、"de + 不定詞" に

は合わないので「名詞化」とした。

14) ごく最近の dequeísmo としてなら観察される。

Santimaria se separó unos segundos de sus siete compañeros de escapada, luego de que hubieran marchado juntos durante 192 kilómetros. (AÑO:1984、AUTOR: PRENSA、TÍTULO: El País, 02/06/1984 : Giro de Italia: Juan Fernández fue cuarto, PAÍS: ESPAÑA,TEMA: 05.Deportes)

これは Gómez Torrego (1999) の述べているように、無標で de を伴う複合前置詞からの類推であろう。あるいは、そもそも1900年代において "luego de" が増加した原因が、"después de" の類推かもしれない。(...cabe pensar que los dequeísmos que aparecen en algunas locuciones conjuntivas como *a no ser de que, una vez de que*, etc., pueden estar influidos por otras locuciones y grupos adverbiales en que la preposición *de* es obligada u opcional...p. 2126)

15) Queísmo y dequeísmo son dos tendencias que, aunque antinómicas, se originan en un mismo hecho... (Rabanales, 1974, p.441)

16) yo insisto que el problema no es ... tal y como ...tú lo planteas... (Bentivoglio, 1975, p.9)

参考文献

検索用 Web サイト

Real Academia Española: *Corpus de Referencia del Español Actual* (*CREA*) y *Corpus Diacrónico del Español* (*CORDE*) <http://www.rae.es/>

研究書

Alarcos Llorach, Emilio (1972) "Grupos nominales con /de/ en español", Studia Hispánica in Honorem R. Lapesa, pp.85-91

_____. (1994) *Gramática de la lengua española*, Real Academia Española, Madrid, Espasa-Calpe.

Arjona, Marina (1978) "Anomalías en el uso de la preposición *de* en el español de México", *Anuario de Letras*, Vol. XVI, pp.67-90

_____. (1979) "Usos anómalos de la preposición *de* en el habla popular Mexicana", *Anuario de Letras*, Vol. XVII, pp.168-184

Bentivoglio, Paola (1975) "Queísmo y dequeísmo en el habla culta de Caracas", *Colloquium on Hispanic Linguistics*, Washinton, Georgetown University Press, pp.1-18

Bentivoglio, Paola y D'Introno, Francesco (1977) "Analisis sociolingüístico del dequeísmo en el habla de Caracas", *Boletín de la Academia Puertorriqueña de la Lengua Española*, Vol.1, pp.59-82

Carbonero, Pedro (1992) "Queísmo y dequeísmo en el habla culta de Sevilla :Análisis contrastado con otras hablas peninsulares y americanas", *Lingüística española e iberoamericana, Scripta philologica:in honorem Juan M.Lope Blanch* II, México,UNAM, pp.43-63

Cortés Rodríguez, Luis (1992) *Estudios de español hablado (Aspectos teóricos y sintáctico-cuantitativos)*, Almería, Instituto de Estudios Almerienses

De Mello, George (1995) "El dequeísmo en el espa;ol hablado contemporaneo: ¿Un caso de independencia semántica?", Hispanic Linguistics Vol 6/7 Fall, University of New Mexico, pp-117-152

García de Diego, Vicente (1981) *Gramática histórica española*, (3ª ed.) Madrid, Gredos.

García Yebra, Valentín (1988) *Claudicación en el uso de preposiciones*, Madrid, Gredos.

Gómez Devís, Begoña (1995) "El queísmo: causas explicativas y actitudes sociolingüísticas", *Pragmática y gramática del español hablado, Actas del II Simposio sobre Análisis del Discurso Oral*, Universidad de Valencia, pp.311-316.

Gómez Molina, Joosé R. (1996) "La variación lingüística en el español hablado de Valencia", *Pragmática y gramática del español hablado, : Actas del II Simposio sobre Análisis del Discurso Oral*, Universidad de Valencia, pp. 75-89

Gómez Torrego, Leonardo (1999) "La variación en las subordinadas sustantivas: Dequeísmo y queísmo"
Gramática descriptiva de la lengua española, dirigida por Ignacio Bosque y Violeta Demonte, Real Academia Española, Madrid, Espasa Calpe, pp.2105-2148.

_____. (2000) *Gramática didáctica del español*, (7ª ed.), Madrid, Ediciones SM.

Hildebrandt, Martha (1969) *Peruanismos*, Lima, Moncroa-Campodónico Editorres Asociados.

J. Butt y C. Benjamin (2000) *A New Reference Grammar of Modern Spanish*, (3ª ed.) Chicago, McGraw-Hill.

Kany, Charles E. (1969) *Sintaxis hispanoamericana*, (versión española de Martín Blanco Alvarez) Madrid, Gredos.

López, María Luisa (1970) *Problemas y métodos en el análisis de preposiciones*, Madrid, Gredos.

Mc Lauchlan, Jessica (1982) "Dequeísmo y queísmo en el habla culta de Lima", *LEXIS*, Vol. VI, Núm.1 pp. 11-55.

Moliner, María (2002) *Diccionario de uso del español* (2ª ed.), Madrid Gredos.

中岡省治 (1991)「余剰の *De*」*Estudios hispánicos* 16, 大阪外国語大学、pp.1-14.

_____. (1992)「中世イスパニア語の deísmo について」*Estudios hispánicos*17,大阪外国語大学、pp.15-32.

_____. (1995)「スペイン語史」『中級スペイン文法』、山田善郎編、東京、白水社、pp.556-589

Náñez Fernández, Emilio (1984) "Sobre dequeísmo", *Revista de Filología Románica* II, pp.239-248

Nebrija, Antonio de (1980) *Gramática de la lengua castellana*, (edición preparada por Antonio Quilis), Madrid, Editora Nacional.

Rabanales, Ambrosio (1974) "Queísmo y dequeísmo en el español de Chile", *Estudios filológicos y lingüísticos. Homenaje a Angel Rosenblat en sus 70 años*, Caracas, Instituto Pedagógico pp.413-444.

Real Academia Española (1979) *Esbozo de una nueva gramática española*, Madrid, Espasa-Calpe.

Sartor, Mario (1983) "El dequeísmo", *Anales del Instituto de Lingüística* XI, Mendoza, Universidad Nacional de Cuyo (Argentina).

Seco, Manuel (1989) *Diccionario de dudas y dificultades de la lengua española,* (9ª ed.), Madrid, Espasa-Calpe.

高垣敏博 (1990)「スペイン語前置詞句の連体機能について—スペイン語の "de" と日本語の「の」を中心に」『京都産業大学論集』第3号、pp.158-197.

_____. (1995)「前置詞」『中級スペイン文法』、山田善郎編、東京、白水社、pp.141-175

(つじい・むねあき　外国語学部助教授)